

■ 令和2年度 新潟市男女共同参画審議会 第2回 策定部会

日時：平成2年7月22日（水）

会場：新潟市役所本館6階 第3委員会室

1 次期男女共同参画行動計画について

①施策体系について

（事務局）

- ・施策体系の概略を説明

（鈴木委員）

- ・目標4で「男性の意識と職場風土の改革」が最初に記載されていることに違和感がある。両立のための環境整備が先ではないか。

（部会長）

- ・目標にぶら下がる施策は、項目の優先順や重点項目順か。

（事務局）

- ・目標4は国の順番に倣ったもの。「男性の意識、職場風土の改革」と「育児・介護の両立のための環境整備」は両輪。

（鈴木委員）

- ・男性も女性も職業、生活を両立するための環境整備が必要で、その次に男性の意識の改革も必要、という順番がよいのではないか。

（田中委員）

- ・女性はジェンダー不平等を認識しているが、家庭に戻ると男性が不平等の上にあぐらをかいている。男性以上に女性は生きづらさを感じているが、男性がそのところに気づかないがゆえに先に進まない。

- ・対話の必要性に気付いても男性側が無関心だと、その意識がある女性までも諦めを感じる。無関心な男性をいかに引っ張り込むかが課題。

- ・ジェンダーの不平等に気づいていくためには順番としては両立のための環境整備が先かもしれないが、これまでもいろいろやってきた結果、男性の意識改革が一番のポイントであると国が整理したのではないか。

（井上委員）

- ・順番は特にこだわらないが、男性の意識改革は全ての目標に必要なのではないか。

・ぱっと見ると、事業主イコール男性という書き方になっているような印象。

(事務局)

・男性の理解は、確かに全てに係る課題であり、啓発などのメインである目標1に男性の理解の促進という項目を置いている。

・目標4は職場の改革のところ男性の意識が最初に出てくるのが違和感の原因かもしれない。「職場風土の改革」だけにするか、「職場風土の改革と男性の意識改革」というような順番を入れ替えるようなイメージにするか、1と2を入れ替えてもよい。

(部会長)

・市民がこの計画を見る、結果を出すことが最終的なゴールであり、新潟市が国のまねをする必要はないと思う。市民が見たときには順番も大事だと思うので、議論を重ねたい。

②本文の素案について

(事務局)

・計画の構成全般の変更点を説明。3次計画の指標達成状況を追加、現状と課題の部分を集約、参考データ(グラフ類)の追加。

・本文の改定素案の概略を説明。

(田中委員)

・市民が読むのなら、課題、数値、それに対する取り組みという順番がわかりやすい。

(井上委員)

・全体として、最終的に第3次との変更点や優先順位などがわかるとよい。

・「男性は女性に比べ自殺者が多い」と「相談につながりにくい」という記述の関係性の説明を。

(事務局)

・新潟県は自殺者が多く、自治体も対策を強化している。相談機関はあるのに、男性は女性より相談につながりにくい。文章表現は今後検討したい。

(部会長)

・「科学・技術や農業・医療などの女性の参画が少ない」について、医療でも医師は男性が多く、看護職や介護職は女性が多い。記述の工夫を。

(井上委員)

・M字カーブが全国と比べて浅いということは、逆に言うと働きやすいから多いと評価する場合もあるがどう整理しているか。

(事務局)

・働きやすいということもあるし、働かねばならぬというものもあろうかと考える。また、まだ希望する方が全員働いているわけではないので、そういう意味ではまだまだ改善はしていかなければならない。

(部会長)

・共働き世帯の家事・育児等の従事時間について、男女差があることも問題だが、女性の293分は長い。女性は家事などをやり過ぎている。

(田中委員)

・男性の意識改革についてこの書き方では弱い。根底にあるアンコンシャスバイアスについてしっかり教えていかなければいけない。家事の分担だけが目指す姿ではない。

③指標案の見直し

(田中委員)

・指標を増やして成果を見ていく方法はよい。次につながるような実施管理ができていくとよい。

(事務局)

・所管課にフィードバックする仕組みも、評価方法の見直しと合わせて検討する。

(鈴木委員)

・評価すべき事業数が減るのはよいが、アルザの事業の評価が減るのはもったいない。

(事務局)

・類似事業を集約したり、アルザの講座などは通常の一次評価と別に事業一覧を添付するなどして、評価の数を減らすことを検討したい。